

令和 6 年 6 月 12 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K11855

研究課題名（和文）ツーリズムクラスター形成を促す地域エコシステムとしてのDMOの理論的・実証的研究

研究課題名（英文）Theoretical and Empirical Study of DMO as Regional Ecosystem Promoting Tourism Cluster Formation

研究代表者

高橋 一夫（Takahashi, Kazuo）

近畿大学・経営学部・教授

研究者番号：90469304

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：観光客が地域資源に魅力を感じ、それを観光行動の目的とするためには、人が観光資源に知恵や資金を投入し、情報を伝達していくことが求められる。また、一定の観光産業集積があることにより、観光消費を促し地域の活性化に寄与することができる。「ツーリズムクラスター」は、そのための政策の一つである。

本研究では、他にはない観光資源・観光コンテンツが生み出されている「差別化」に焦点をあて、ツーリズムクラスターを6タイプに分けて分析し、形成要因とその可能性について明らかにした。また、クラスター形成にあたって、DMOが地域エコシステムとして関与できるタイプはどのタイプかを明らかにし、関与の在り方について分析をした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

自然景観や歴史・文化などの観光資源がある地域は従来から観光地と呼ばれていた。そうした地域は観光を生業とする人も多く、観光消費が地域で循環する仕組みもでき上がっているところも多い。しかし、新たに観光地域づくりをしていく地域は、地域資源を磨き上げて魅力あるものにしていくだけでなく、企業誘致や観光消費につながる地元事業者を育てていくことも必要である。

しかし、新規創業に寄与する諸機関の集積は大都市に集中し、地方との格差を生じさせる都市間構造が存在する。この格差を埋めるDMOの地域エコシステムとしての機能による、ツーリズムクラスターの育成要因とそのプロセスを明らかにする研究は観光政策に一定の役割を果たす。

研究成果の概要（英文）：In order for tourists to find the target resource attractive and make it the purpose of their tourism activities, people are required to invest knowledge and funds into tourism resources and to communicate information. In addition, there is a certain concentration of tourism industry.

By doing so, it is possible to encourage tourism consumption and contribute to regional revitalization. "Tourism cluster" is one of the policies to achieve this goal. In this study, we focused on the "differentiation" that creates unique tourism resources and tourism content, analyzed tourism clusters by dividing them into six types, and clarified their formation factors and their possibilities.

In addition, in forming clusters, we clarified which types of DMOs can be involved in regional ecosystems and analyzed how they should be involved.

研究分野：観光学関連

キーワード：ツーリズムクラスター DMO 規制緩和 観光ファンド 地域エコシステム

ツーリズムクラスター形成に関する研究

—その形成を支援する地域エコシステムとしての DMO—

1. 研究開始当初の背景

DMO に関する研究は、図 1. のように 3 つの研究領域が存在する。DMO によるマーケティング研究は、図の①の位置づけにあり、②DMO 組織そのもののマネジメント研究のあり方についての先行研究については散見されず、本研究代表者である高橋が、欧米 DMO と日本の観光振興組織（観光協会等）との比較分析から、成功を収める DMO のマネジメント特性について取りまとめをおこなった(高橋 2017)。③は観光目的地を構成する要素（観光資源・快適性・アクセスの容易さ・人的資源・イメージ・価格）のマネジメントや DMO のネットワーク管理、利害関係者管理について、研究が進み始めた(Volgger 2014 など)。



図1. DMO に関する研究領域の概念図

こうした研究からも DMO は、観光目的地を多様な側面から統合的にマネジメントする組織であることが期待されており、DMO 研究がマーケティング機能を中心とした研究に偏っていることを考慮すると、③の実践で求められているマネジメント機能、および DMO を取り巻く組織間関係のマネジメントについての研究蓄積が待たれている。

2. 研究の目的

本研究では、特に日本において蓄積の少ない「観光目的地を多様な側面から統合的にマネジメントする DMO 研究」の一環として、DMO と観光行政が地域にツーリズムクラスターを育成するプロセスと地域エコシステムのプラットフォームとして成功する要因について理論的・実証的に考察することを目的とする。

3. 研究の方法

二神（2008）が示した 4 タイプを、文献調査から日本の観光地を整理し、半構造化インタビューによりデータを収集した。一方、国による観光関連の規制緩和策と地方銀行を中心とした観光ファンドによる新たな 2 つのクラスタータイプを設定し、同様にインタビューからデータを収集した。インタビューから収集される定性的事実から、形成要因につながる必要条件を生成していった。

4. 研究成果

DMO と観光行政によって推進される観光振興に期待されるのは、①旅行客数の増加、②観光消費額（消費単価）の向上、③マネジメントをする域内の調達率の向上である。この 3 つの積が大きくなることで、地域への経済効果を高めることが求められている。オーバーツーリズムの現象がみられるようになった新型コロナ後の日本で、観光が地域経済の活性化に寄与するために意識したいのは、旅行客数の増加だけではなく、観光消費と域内調達を促す取り組みである。

「ツーリズムクラスター」は、そのための政策の一つといえる。本研究では、マイケル.

ポーターの産業クラスター¹論を土台として考察を進める。「地域の産業クラスターやインフラなど、観光客にとって魅力的なコンテンツが地域の観光関連クラスターと結節することで、地域産業を含む地域と観光関連産業との間に Win-Win の関係を築きながら共通性と補完性をもって集積（近接して立地）している状況」をツーリズムクラスターと呼ぶ。

(1) ツーリズムクラスターの分類

二神（2008）は、多様な分野のアプローチから、産業クラスターを分類整理する必要性を指摘し、ミネソタ大学のアン・マークセンの分類を紹介している。本研究では、その4タイプを参考に、日本の観光地に当てはめた類型に整理してみるとともに、研究で明らかになった2つのクラスターの形成要因についても検討を行った（表1参照）。

以下では、タイプ別に考察を示すが、例えば東京ディズニーリゾートやユニバーサルスタジオが存在することによってクラスターが形成されるタイプ2（コア企業型集積）については、周辺にテーマパーク運営会社の資本で作られた宿泊や飲食・物販施設及びライセンス契約によるオフィシャルホテルなどの施設が集積する分かり易いタイプであることから、本研究での考察は行わない。

(2) タイプ1ー地域創発型集積タイプ：山梨県勝沼のツーリズムクラスターを例として

このタイプは、歴史的には古典的観光資源をもつ地域にも当てはまるが、これまで観光地と呼ばれなかった「時代の価値を基盤とした観光資源」を有する地域が、知恵や工夫を出していくべきタイプとして参考になる。

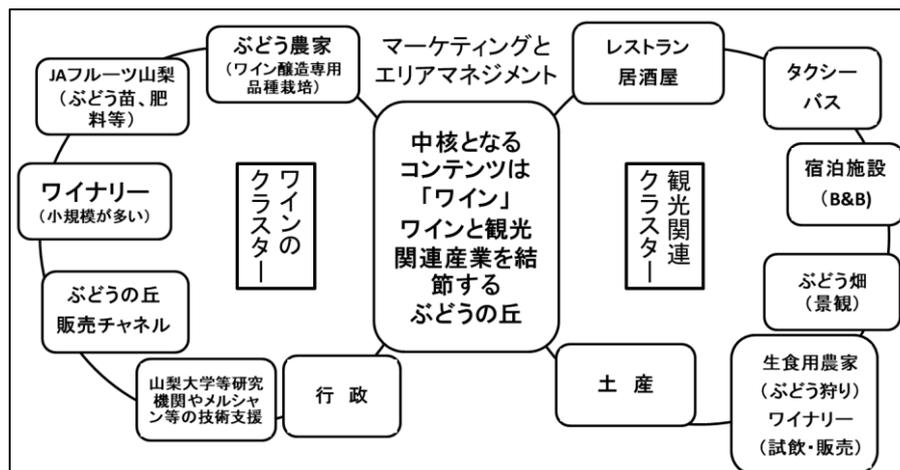


図2. 勝沼のツーリズムクラスター

出所: 筆者作成

勝沼のワインクラスターは、歴史的にワインのクラスターが先に形成され、その後に観光関連のクラスターが形成されたものとするのが妥当だが、従来から経営されていたタクシー会社や飲食店等はワインクラスターとある種のプログラムによって結節することにより、新たな需要と競争力を得たといえる。ツーリズムのテーマとなるコンテンツを中核とするクラスターと観光関連クラスターがお互いに結びつくことによって、新たな相補効果、相乗効果を生み出すクラスター間の結節とそのための仕組みとしての機能であることを示している（図2. 参照）。

¹ ツーリズムクラスターも産業クラスターの1つである。本稿では、マイケル・ポーターの定義である「ある特定の分野に属し、相互に関連した、企業と機関からなる地理的に近接した集団」（1999）を援用して議論を進める。経営学の分野において、ポーターの研究はクラスター分野の有力なパラダイムとなっていると指摘されている（藤田 2011）。

表1. ツーリズムクラスターのタイプ

タイプ	特徴(概略)	類似の日本の観光地域	地域エコシステム機能の要否
タイプ1 (地域創発型集積)	企業は小規模で、主に地元企業からなる。規模の経済は小さく、地域での取引が多い。独特の地域文化があり、それが進化している。地元の企業をよく知り長期のリスクを担う地元の金融機関(忍耐強い資本)が存在する。従来からの観光地だけでなく、「時代の価値を基盤とした観光資源(第4章参照)」を有する地域にもあてはまる。	勝沼のワインをはじめ、スポーツツーリズム、美食ツーリズムなどを志向する地域。日本を代表する温泉、京都、奈良等の古くからの観光地。	ツーリズムのテーマとなるコンテンツを中核とするクラスター(勝沼ならワイン)と観光関連クラスターがお互いに結びつくことによって、新たな相乗効果、相乗効果を生み出し、クラスター間(インタークラスター)の結節を促す組織や仕組みが機能した時に成立。
タイプ2(コア企業型集積)	1社ないし数社の大企業を頂点にして、多くの企業が垂直的な関係に立っている。コア企業は必ずしも地域企業ではなく、地域外でも大いに活動をしている。規模の経済は比較的大きい。	TDL、USJなど比較的新しく開発された観光地。	必要としない。 2030年開業予定の大阪IRとその周辺の形成プロセスに注目したい。
タイプ3 (外来企業中心型集積)	外部に本社を置く企業が力を持っている。地域内での取引はあるものの地域外部の企業、特に親企業との協力のウェイトが高い。そのため、地域とのコミットメントはあるが絶対的なものではない。従業員は地域よりも企業にコミットする。	淡路島、白馬、ニセコ、トマム、沖縄など開発資金が必要なリゾート地が多い。	パソナは淡路島北部に18カ所の観光施設を開業。彼ら独自のプロモーションのため、上書きされたイメージが淡路島にはできあがる。2020年秋にコロナを機に、本社機能120人を移転。一棟貸しの簡易宿舎、バルニバービによる飲食店の集積が見られる。
タイプ4 (インフラ中核型集積)	国・自治体の施設やインフラがコアになっている集積、例えば国際会議場や国際展示場などがそれにあたる。こうした施設は都市部にあり、ビジネスリトリップや都市観光の需要も引き寄せる可能性が高い。規模の経済は比較的高い。プロフェッショナルが多く、人材の流入もみられる。愛知県においては、コンセッションの導入により高速道路周辺にショッピングセンターが作られるなど、集積が進む可能性も見受けられる。	横浜、神戸、大阪を始めとしたMICE都市や瀬戸内しまなみ海道を跨ぐ尾道、今治など。	しまなみJapanはしまなみ海道周辺に進出の企業サポートやレンタサイクルを運営。 コンセッション企業(前田建設工業)の運営をするAICHI SKY EXPO、関西エアポートがコンセッションを担う関西国際空港などが地域の中核となることも。
タイプ5 (規制緩和型集積)	国の規制緩和政策によって小規模な民間事業者が事業を開始することで見られる集積。イタリアのアルベルゴディアーツのように、町全体でホテルの機能を構成する分散型ホテルシステムが日本でも始まっている。日本の場合は最低客室数(ホテル10室以上、旅館5室以上)基準の廃止やフロント設置義務の緩和によって実現した。また、2020年に道路運送法の改正があり、事業者協力型の自家用有償旅客運送が可能になったことで、二次交通に課題のある地域において、DMOが事業主体となって自家用有償による周遊観光を実現し、集積が始まる可能性がある。	千葉県いすみ市、兵庫県丹波篠山市、東大阪市など	規制緩和におけるDMOとして、いすみDMOが自家用有償旅客運送を実施。紀の川市はインバウンド専用で自家用有償旅客運送を開始。 DX活用の豊岡DMOは旅館の集客予想で、土産物店、飲食店の仕入れサポートにつなげている。 イタリアのアルベルゴディアーツは、飲食店、土産物店を引き付ける。東大阪のSEKAI HOTELは、商店街を街ごとホテルに見立てた運営をしている。
タイプ6 (観光ファンダ型集積)	2013年以降のインバウンド観光の伸びや2014年に公表された国の地方創生に関わる一連の政策により、観光が注目され、各地の地方銀行でREVIC等と組んだ観光活性化ファンドが組成された。その投資対象として、観光コンテンツの開発、宿泊施設用が再生されたり新設されたりしており、特にインバウンド需要の高い瀬戸内に成果が見えてきている。	せとうちDMO(瀬戸内ブランドコーポレーション管内)や株式会社地域経済活性化支援機構(REVIC)によるファンド運営を通じた支援地域	ファンドの回収には観光消費が活発でなければならず、地域への集客を促すDMOとの密接な関係が求められる。ファンド側だけでなく、DMOの役割が大きい地域でもある。

出所:タイプ1~4については、二神(2008)を参考に筆者作成。タイプ5~6については筆者の考察により作成。タイプ名は筆者と科研共同研究者の柏木千春氏(大正大学教授)で名づけた。

(3)タイプ3ー外来企業中心型集積タイプ

タイプ3は、地域外に本社を置く企業が力を持っており、地域内での取引はあるものの地域外部の企業、特に親企業との協力のウェイトが高いタイプである。沖縄やニセコなどの人気のリゾートは、開発資金が必要であり、外部の大手資本が進出する余地が高い観光集積地である。ここでは、パソナグループによる淡路島でのクラスター形成について取り上げる。

パソナグループが淡路島と深く関わるようになったのは、2008年に独立就農を支援する事業がきっかけであった。その後、島の北西岸で廃校を改装した複合観光施設(のじまスコール)のオープンをきっかけに、あわじ市北部のリゾート開発に力を入れ始めていく。23年時点で宿泊施設、レストランを含めた観光施設は18カ所に上る(図2.参照)。パソナグループの資本と人材により新たな観光開発が進んだことで、飲食店を主流とする東京のバルニバービが、淡路市の西海岸に「食べる」をキーワードに2019年より西海岸のサンセットラインに400mにわたってホテルやレストランを複数開業し波及効果があらわれている。

しかし、日帰り客が中心で、従来からの観光事業者との連携は薄いことが地元関係者から指摘されている。特に新たなコンテンツが、「上書きされた淡路島のイメージ」になってきていること

には注意が必要であると DMO の専務は指摘する。

(4)タイプ4ーインフラ中心型集積

国際会議場や国際展示場などがそれにあたる。こうした施設は交通の便の良い都市部（横浜、神戸など）にあり、ビジネストリップや都市観光の需要も引き寄せる可能性が高い施設である。そのため「規模の経済」は比較的高く、人材の流入とともにプロフェッショナルの存在が多くみられる。例えば、しまなみ海道にサイクリングロードが併設されたことで 2012 年に台湾の自転車メーカー GIANT が今治に店舗を開設し、2014 年には尾道にも店舗が開設され、サイクリスト向けの宿泊施設やレストランが入り、サイクリングロードを核としたツーリズムクラスターが形となっていった。CNN の世界七大サイクリングルートにも選定され、訪日外国人客が増えている。DMO（しまなみジャパン）はマーケティングの役割を果たしているが、形成には深く関与はしていない。

また、空港や国際会議場にはコンセッションが導入されることで、建設式や運営の在り方に民間の活力が導入されてきている。

(5)タイプ5ー規制緩和型集積

2016 年に国が「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定し訪日外国人客を 2030 年には 6000 万人という目標が示されたことで、観光関連分野における規制改革の法整備や体制整備が進んだ。宿泊業におけるフロント設置義務の緩和や最低客室数の基準撤廃によって、東大阪市や岡山県矢掛町ではイタリアのアルベルゴディフーズのような街全体をホテルに見立てた宿泊施設がつけられている（東大阪市布施の SEKAI HOTEL や岡山県小田郡矢掛町の矢掛屋など）。

「事業者協力型自家用有償旅客運送」を観光に取り入れた千葉県いすみ市、「歩行者利便増進道路制度で御堂筋の側道 2 車線を歩道にし、北欧のストロイエ化する大阪市などは、規制緩和をきっかけに観光産業の集積を造り上げようとしている。

(6)タイプ6ー観光ファンド型集積

せとうち DMO の一角である SBC ではクルーズ・サイクリング・アート・食・宿・地域産品をテーマに、瀬戸内 7 県（山口・広島・岡山・兵庫・愛媛・香川・徳島）をエリアとして事業が進められている。SBC は劣後ローンなどリスクマネーを供給することで地元の地銀等がシニアローンを打ちやすくし、特に尾道・生口島では宿泊、クルーズなどの集積ができてきている。

(7)まとめー地域エコシステムとしての DMO とクラスターの関り

DMO（観光地のマーケティング）と観光行政（観光地のマネジメント）が中核となって、地域の観光関連事業者・観光周辺事業者・住民など各種の利害関係者と協働し、ある時は事業者間の競争も生み出しながら観光まちづくりに向けての戦略を実践していくことは、地域独自の生態系（地域エコシステム）を構築することに他ならない。DMO がクラスター形成において、その役割を果たしている確認が取れたのはタイプ 1 とタイプ 6 であった。このうちタイプ 1 は複数の事例で確認ができたものの、タイプ 6 はせとうち DMO にしか例がない。また、タイプ 5 は DMO ではなく、観光行政が関りを持つことが多い。

それぞれのタイプごとに事例となる地域を抽出し、コロナ禍のため可能な範囲で現地に事例調査と関係者へのインタビューをおこなうことで、クラスター形成における必要条件についての取りまとめをおこなった。今後は、十分条件についての研究をおこない、取りまとめをすすめていく。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計48件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 高橋一夫・柏木千春	4. 巻 31
2. 論文標題 日本におけるツーリズムクラスター形成過程の考察	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会第31回全国大会論集	6. 最初と最後の頁 pp7-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 33
2. 論文標題 ポストコロナ時代の観光地経営	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 21世紀ひょうご	6. 最初と最後の頁 pp15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏木千春	4. 巻 Vol.161
2. 論文標題 観光振興財源確保策の議論のあり方を考える=宿泊税を中心に：存続と発展を目指して-	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 あしぎん経済月報	6. 最初と最後の頁 pp8-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 33巻2号
2. 論文標題 ポストコロナに向けた観光産業の経営計画	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 観光研究	6. 最初と最後の頁 84-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 Vol.113
2. 論文標題 地域の個性を活かす行政とDMOの 観光戦略	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際文化研修	6. 最初と最後の頁 2-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柏木千春	4. 巻 Vol.8 (1)
2. 論文標題 Formation of the tourism business ecosystem in agriculture-based area	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Japan Academic Society of Hospitality Management	6. 最初と最後の頁 11-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 第75巻第3号
2. 論文標題 産業としてのスポーツの可能性 - ワールドマスターズゲームズ2021関西が何をもたらすかの -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際経済労働研究	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 第80巻第9号
2. 論文標題 持続可能な観光事業を目指して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 運輸と経済	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 柏木千春	4. 巻 136号
2. 論文標題 新時代のDMOによる観光地域づくり「迎えてよし」の実践から「地消地讃」の輪を広げる	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 あしぎん経済月報 10月号	6. 最初と最後の頁 10-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.385
2. 論文標題 新型コロナの危機管理 -想定外の事態にどう対処すべきか-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 48-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.389
2. 論文標題 コンビニとホテルに学ぶ -差別化を生み出すビジネスモデル-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.391
2. 論文標題 観光のマネジメント特性 -サービスの中心は利用権や情報-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.393
2. 論文標題 「訳あって安い」商品の作り方 -LCCのビジネスモデルに学ぶ-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.395
2. 論文標題 空いた空間、空いた時間を コストにしないための仕組み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.397
2. 論文標題 季節型観光地の渋滞を解消 -奈良・吉野山の交通マネジメント-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 62-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.399
2. 論文標題 共通価値の創造による 共感のマネジメントが成功の鍵	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.401
2. 論文標題 新型コロナ第3波における2009年新型インフルエンザの教訓	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.403
2. 論文標題 市場構造が大きく変わるとき 経営者は跳ばねばならない	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 60-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.405
2. 論文標題 観光施設の集客の論理 - 繁閑の差を縮め、固定費を減らす -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 46-47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO.407
2. 論文標題 観光インフラの魅力向上 - コンセッションやBT0も選択肢 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 15(1)
2. 論文標題 日本版DMO導入の議論の本質	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 観光と情報：観光情報学会誌	6. 最初と最後の頁 21-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 N0361
2. 論文標題 destination・マーケティングで地域活性化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 50-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 N0363
2. 論文標題 観光資源の特徴と開発-資金をかけ、ターゲットに情報発信-	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kashiwagi Chiharu	4. 巻 39
2. 論文標題 Formation of the Inbound Tourism Business Ecosystem:	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japan Marketing Journal	6. 最初と最後の頁 30~41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7222/marketing.2020.019	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村 匡	4. 巻 6
2. 論文標題 地域活性化に取り組む際の基本的検討事項についての考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 181 - 186
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 NO365
2. 論文標題 集客における文化資源の活用のやり方	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 42-43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.367
2. 論文標題 デジタル時代のターゲティング-複数のデータを組み合わせ行動把握	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.369
2. 論文標題 観光地域の情報発信-ターゲットの段階で使い分け	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.371
2. 論文標題 デジタルマーケティングにおけるチャンネルとプロモーション	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 44-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.373
2. 論文標題 デジタル時代のデスティネーション・ブランド構築	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.375
2. 論文標題 体験需要を取り込む着地型旅行商品の技法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 34-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.377
2. 論文標題 DMOのパブリックリレーションズ-求められるソーシャルメディア対応	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.379
2. 論文標題 集客力と満足度を高める4要因—一級の観光資源がなくとも厚み	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローカル	6. 最初と最後の頁 56-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.381
2. 論文標題 規制緩和を地域に取り込む—民泊とライドシェアに活路	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローカル	6. 最初と最後の頁 38-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 No.383
2. 論文標題 地域の利害関係者と調整する - 「意図に対する期待」必要に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日経グローカル	6. 最初と最後の頁 40-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 359
2. 論文標題 DMOが先導する地域 - 魅力向上と持続可能性の両立	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローカル 2019年3月4日	6. 最初と最後の頁 34 35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田村 匡	4. 巻 5
2. 論文標題 第1回アジアパシフィック マスターズ ゲームズ (Asia-Pacific Masters Games)について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪成蹊大学紀要	6. 最初と最後の頁 129-133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 357
2. 論文標題 DMO設立後の課題 - 人材の確保・育成と財源確保	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル 2019年2月4日	6. 最初と最後の頁 36 37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 355
2. 論文標題 地域観光を先導する国内先駆者ー下呂温泉とひがし北海道DMO	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日経グローバル 2019年1月7日	6. 最初と最後の頁 48 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 353
2. 論文標題 地域観光を先導する国内先駆者ーせとうちDMO	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年12月3日	6. 最初と最後の頁 46 47
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 351
2. 論文標題 地域観光を先導する国内先駆者－田辺市熊野ツーリズムビューロー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年11月3日	6. 最初と最後の頁 42 43
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 349
2. 論文標題 行政のジレンマとDMOとの役割分担	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年10月1日	6. 最初と最後の頁 40 41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 347
2. 論文標題 欧米と日本のDMOの違い - 7つの組織マネジメント特性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年9月3日	6. 最初と最後の頁 44 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 345
2. 論文標題 海外DMOの事例 - 米メリーランド州はスペシャリスト集団	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年8月6日	6. 最初と最後の頁 44 45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 343
2. 論文標題 海外DMOの事例 - ロンドン&パートナーズはROIで目標管理	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年7月2日	6. 最初と最後の頁 50 51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 341
2. 論文標題 海外DMOの事例 - パルセロナDMOのマネジメント力	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年6月4日	6. 最初と最後の頁 48 49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 339
2. 論文標題 DMOの3つのマネジメント - 経営管理の原則を踏まえた運営	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年5月7日	6. 最初と最後の頁 116 117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋一夫	4. 巻 337
2. 論文標題 DMOとは何か - その必要性と概念を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日経グローバル 2018年4月2日	6. 最初と最後の頁 52 53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計17件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 高橋一夫・柏木千春
2. 発表標題 日本におけるツーリズムクラスター形成過程の考察
3. 学会等名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会第31回全国大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 ニューノーマルと呼ばれる時代の観光地経営
3. 学会等名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会第30回全国大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 DMO運営組織に関する考察 - 観光振興における地域エコシステムに向けて -
3. 学会等名 日本観光経営学会 第3 回年次大会（2022年1月8日）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柏木千春
2. 発表標題 農業基盤地域における観光ビジネスエコシステムの形成 大田原ツーリズム（地域DMO）の実践事例からー
3. 学会等名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会（全国大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田村匡
2. 発表標題 イベントを契機とした地域観光関連産業クラスターの育成の可能性の研究
3. 学会等名 イベント学会（全国大会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 DESTINATIONマーケティングにおける文化資源活用の一考察
3. 学会等名 日本観光研究学会第 35 回全国大会 2020年12月5日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田村匡
2. 発表標題 地域内GDPに注目した都市経営についての研究 -検討すべき課題の明確化-
3. 学会等名 第23回イベント学会研究大会 2020年11月8日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 コンセッションの導入によるツーリズムクラスター形成の可能性
3. 学会等名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会第28回全国大会 2019年8月24日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柏木千春
2. 発表標題 日本版DMOの観光地経営戦略ー文献レビュー：観光クラスターの特性及び形成・育成に関わる要素の把握
3. 学会等名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会第28回全国大会 2019年8月24日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村 匡（共同発表）
2. 発表標題 オープンかつ国際的なマスターズスポーツ大会の参加者の消費行動の研究 - 「ミズノおもてなしカップジャパン2019」参加者の調査結果から見えた特徴
3. 学会等名 日本マーケティング学会 第8回マーケティングカンファレンス2019 2019年年10月20日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 効果的なデスティネーションマーケティングにむけた一考察 - デジタル時代のプロモーションミックスー
3. 学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会 2019年12月15日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 柏木千春
2. 発表標題 日本版DMOで働く女性の活躍推進の現状と課題
3. 学会等名 第34回日本観光研究学会全国大会 2019年12月14日
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田村 匡
2. 発表標題 東大阪市におけるラグビーワールドカップ2019大会の効果検証のための必要項目について -開催前の推計を開催後に振り返るために-
3. 学会等名 日本スポーツマネジメント学会 2020年2月24日
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 ツーリズムクラスター概念の提示とクラスター間の結節機能の必要性 - 勝沼のワインツーリズムを事例とした一考察 -
3. 学会等名 第33回日本観光研究学会全国大会 2018年12月16日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 DMOに求められるCSV機能の試論 - 地域エコシステムとしてのDMOの可能性 -
3. 学会等名 日本ホスピタリティ・マネジメント学会第27回全国大会 2018年8月25日
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋一夫
2. 発表標題 観光地経営におけるDMOの果たすべきマネジメント機能
3. 学会等名 観光情報学会第15回全国大会基調講演 2018年6月30日（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田村匡
2. 発表標題 スポーツイベントのレガシーによる経済効果の最大化 - 東京2020ワールド・マスターズゲームズ 関西2021を例に -
3. 学会等名 日本スポーツ産業学会 第27回大会 2018年7月22日
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 高橋一夫	4. 発行年 2024年
2. 出版社 学芸出版社	5. 総ページ数 250
3. 書名 観光地のマーケティングとマネジメント (仮題)	

1. 著者名 田村匡	4. 発行年 2020年
2. 出版社 学术研究出版	5. 総ページ数 13
3. 書名 『スポーツSDGs概論』 (第16章「メガスポーツイベントとSDGs」)	

1. 著者名 田村匡	4. 発行年 2018年
2. 出版社 学术研究出版	5. 総ページ数 29
3. 書名 『スポーツツーリズム概論』 (第9章「スポーツコミッションについて」および第11章「ワールド・マスターズゲームズとは」担当)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	柏木 千春 (Kashiwagi Chiharu) (50454749)	大正大学・社会共生物学部・教授 (32635)	
研究 分 担 者	田村 匡 (Tamura Tkashi) (70586693)	大阪成蹊大学・経営学部・教授 (34437)	3年目から個人的事情により研究分担者を外れた

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関